

目標年度	令和12年度
計画期間	令和6-12年度

宮崎県かんしょ振興方針

～次世代につなぐ持続可能な
かんしょ産地体制づくり～

令和6年3月

宮崎県

目次

1	趣旨	1
2	本県かんしょを巡る情勢	1
3	課題と目指すべき方向性	2
4	振興方針の目標	3
5	実施すべき対策	3
6	ロードマップ	4
7	別紙「茎頂培養苗の作出を行う品種について」	6

1 趣旨

かんしょは、実需者の要望や消費者ニーズに基づき用途別に生産が行われている。しかし、採苗・定植作業での機械化の遅れや高齢化等による産地の縮小、サツマイモ基腐病などの新奇病害虫の発生等による生産量の減少などがみられるため、早急に対策を講じることが求められている。

こうしたことから、次世代につなぐ持続可能なかんしょ産地体制づくりを目指すための、基本的な方向性を示す方針として振興方針を策定する。

なお、当方針は第八次宮崎県農業・農村振興長期計画のかんしょの振興に関する具体的な行動計画として位置付け、計画の期間は令和6年度から令和12年度とする。

2 本県かんしょを巡る情勢

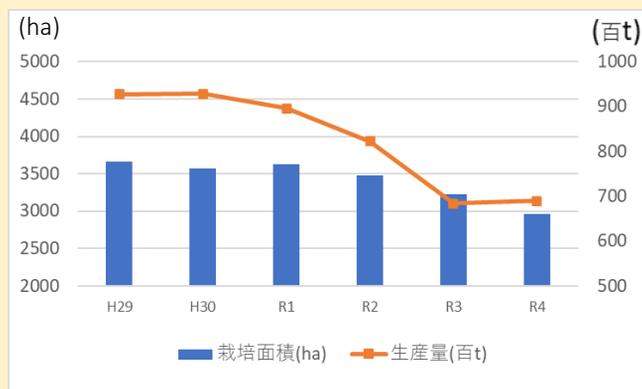
(1) 生産概況

- ・栽培面積全国第4位、産出額第5位の産地で、県西や県中南部の黒ボク土壌の畑地帯を中心に、夏場の土地利用型作物として栽培
- ・用途別(面積)では、青果用20%、焼酎原料用59%、加工用19%、でん粉用2%
- ・高齢化やサツマイモ基腐病の発生等により農家戸数、栽培面積、生産量ともに減少傾向
- ・栽培面積の減少に加え、資材の高騰など生産コストの上昇により農業所得は減少
- ・茨城県他、北海道など関東以北ではかんしょ作付面積が増加傾向

〔かんしょ農家戸数〕

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4
農家戸数(戸)	1,442	1,375	1,268	1,186	1,179	1,103

〔かんしょの栽培面積と生産量の推移〕



(2) サツマイモ基腐病

- ・平成31年1月にサツマイモ基腐病の発生が本県で初確認され、その後、青果用、焼酎原料用に拡大
- ・試験研究や現地実証等により得られた新たな技術や知見を参考に発生防止対策を実施
- ・発生が多かったR2、3年に比べると発生が減少している地域もあるが、地域や生産者間で取組の実践に差



〔サツマイモ基腐病〕

※地際の茎が黒～褐色に変色。ひどくなると、地上部が枯死し、いもは腐敗。

(3) 用途別の状況

①青果用かんしょ

- ・南那珂地域で主に栽培
- ・超早掘～早掘～普通掘（貯蔵）の周年出荷
- ・高齢化や基腐病の発生等により、生産量は減少
- ・輸出量は令和元年をピークに減少したが、令和4年は回復傾向（R元:1,696t→R3:951t→R4:1,137t）

〔かんしょの輸出実績の推移〕



②焼酎原料用かんしょ

- ・中部、北諸県、西諸県、児湯地域で主に栽培
- ・焼酎ブームの沈静化により、生産量は平成29年をピークに減少

③加工用かんしょ

- ・北諸県、児湯地域で主に栽培
- ・食の外部化の進展等により作付面積は増加傾向
- ・かりんとうなどのお菓子用が最も多く、次いで焼きいも用、大学いも用等の用途に仕向け

3 課題と目指すべき方向性

【解決すべき課題】

(1) サツマイモ基腐病のまん延

- ・地域や生産者間で対策の実施状況に格差
- ・排水不良のほ場で発生が多発
- ・抵抗力を有する品種の普及が不十分
- ・連作ほ場で発病時期が早い傾向
- ・健全な種芋や苗の確保が不十分

(2) 苗の安定生産・供給体制の不備

- ・茎頂培養苗の供給が不十分
- ・茎頂培養苗生産時の変異株等発生リスク

(3) 担い手の減少や生産コストの高まり

- ・高齢化に伴う離農、作付面積の減少
- ・生産コストの上昇による農業所得の減少
- ・担い手の減少に伴う労働力不足
- ・育苗に係る大きな労力負担

(4) 状況の変化への対応が不十分

- ・青果用かんしょの国内需要の産地間競争の激化、価格の下落
- ・他用途との競合による焼酎原料用かんしょの供給不足
- ・基腐病の拡大や新型コロナのまん延等による輸出量の減少

【目指すべき方向性】

- (1) サツマイモ基腐病対策の徹底
- (2) 茎頂培養苗の安定生産と供給
- (3) 担い手の減少や生産コストの上昇への対応
- (4) 産地情勢やニーズの変化等への対応

4 振興方針の目標

(1) サツマイモ基腐病の減少

基腐病発生実面積

令和2・3年平均：7.2%



令和12年：0.7%

(2) かんしょ産地の維持拡大

かんしょの産出額

令和4年：50億円



令和12年：70億円

5 実施すべき対策

(1) サツマイモ基腐病の克服

① マニュアルに基づいた対策の徹底

- ・研修会の開催、現地指導の実施
- ・チェックリストを活用した対策の実践
- ・輪作や交換耕作、排水対策の推進



〔抵抗性のある品種「べにひなた(左)」、
「みちしずく(右)」〕 写真：農研機構HPより

② 健全苗の確保

- ・茎頂培養苗由来の種芋・苗の供給率100%の実現

③ 抵抗性を有する品種の作付拡大

- ・産地や用途に応じた栽培技術の確立
- ・ニーズに対応した品種の普及

(2) 茎頂培養苗の安定供給体制づくり

① バイテクセンターを中心とした茎頂培養苗の生産と供給

- ・バイテクセンターへの苗生産支援による安定的な茎頂培養苗の供給
※別紙参照：「茎頂培養苗の作出を行う品種について」
- ・2次育苗体制整備への支援による苗安定供給の実施



〔茎頂培養苗の増殖〕

② 病害や変異株等のリスクに対応できる苗生産体制の確立

- ・変異苗発生リスク低減対策の実施
- ・新品種等の安全かつ効率的な増殖方法の確立及び実施

(3) 儲かる経営体の育成

① 機械化体系にあわせた栽培技術やスマート農業技術等の導入

- ・省力機械化体系の普及等効率的な生産体制の取組推進
- ・ドローン等スマート農業技術の導入への支援
- ・育苗作業における省力化技術の開発と普及



〔スマート農業技術〕

② 法人や大規模経営体を中心とした作業受託体制モデルの推進

- ・機械や人材の活用を実現する作業受託体制整備の支援
- ・作業委託の推進による作業の効率化と所得向上の実現

(4) 特徴を活かした産地づくりと販売力の強化

① 産地の特長を活かした販路開拓への支援

- ・品種(宮崎紅)や出荷時期(超早掘)など、産地の特長を活かした販売戦略の実施
- ・酒造メーカーや加工業者等実需者とのマッチングや組織の強化、人材育成への支援
- ・輸出拡大に向けた市場動向調査と新たな販路開拓への支援

6 ロードマップ

振興方針の具体化を目的に、実施行程と役割分担を明確化するためロードマップを作成。
農産園芸課が全体を総括し対策を進め、実施行程（取組事項と実施時期）と役割分担（責任者◎）は各対策を中心となって進める機関を示す。

(1) サツマイモ基腐病の克服

【総括】 農産園芸課

対策	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	農園	局	普及	試験場	市町村	JA	バイテク	その他
① マニュアルに基づいた対策の徹底	研修会、現地指導							◎	○	○		○	○		
	チェックリスト活用 重点推進							○	○	◎		○	○		
	輪作、排水対策推進 (県単独事業)			輪作、排水対策推進 (国庫事業)				◎	○	○		○	○		
② 健全苗の確保								◎	○	○		○	○		
③ 抵抗性を有する品種の作付拡大	現地実証								○	○	◎	○	○		
				栽培技術の確立						○	○	○	○		
								○		◎		○	○		

(2) 茎頂培養苗の安定供給体制づくり

【総括】 農産園芸課

対策	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	農園	局	普及	試験場	市町村	JA	バイテク	その他
① 茎頂培養苗の生産と供給	安定的な苗の供給							○		○	○	○	○	◎	
					2次育苗体制整備			◎	○	○		○	○		種苗会社等
② リスクに対応できる苗生産体制の確立	リスク低減対策							○			◎			◎	
					増殖方法の確立			○		○	○	○	○	◎	

(3) 儲かる経営体の育成

【総括】 農産園芸課

対策	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	農園	局	普及	試験場	市町村	JA	バイテク	その他
① スマート農業技術等の導入			省力機械化体系の普及等					◎	○	○	○	○	○		農機メーカー
		スマート農業技術導入支援						◎	○	○	○	○	○		農機メーカー
		育苗作業の省力化技術の開発	育苗作業の省力化技術の普及					○	○	○	◎	○	○		
② 作業受託体制モデルの推進		作業受託体制の整備	作業受託の重点推進					◎	○	○	○	○	○		担い手農地対策課
			作業委託の重点推進					○	○	◎	○	○	○		担い手農地対策課

(4) 特長を活かした産地づくりと販売力強化

【総括】 農産園芸課

対策	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	農園	局	普及	試験場	市町村	JA	バイテク	その他
① 販路開拓への支援		販売戦略検討支援	販売戦略の重点実施					○	○	○	○	○	◎		◎法人等
			組織の強化、人材の育成					◎	○	○	○	○	○		酒造組合、加工メーカー
		市場動向調査	販路開拓への支援					◎	○	○	○	○	○		農業流通プラットフォーム課、法人等

茎頂培養苗の作出を行う品種について

1 県が茎頂培養苗の作出を行う品種一覧

安全なかんしょ苗の確保に向け、下記品種について、バイテクセンターからの業務委託があった場合、県は茎頂培養苗の作出を行う。

区 分	品 種 名
栽培面積の多い品種	・コガネセンガン ・高系14号（宮崎紅） ・ベにはるか ・ムラサキマサリ
サツマイモ基腐病に抵抗性のある品種	・べにまさり ・べにひなた ・みちしずく
その他	—

2 品種選定の考え方

- ・県内において栽培面積が多い品種（市町村報告、バイテクセンターからの苗供給実績等を参考）
- ・サツマイモ基腐病に抵抗性を有し県内で普及が見込まれる品種
- ・その他、農産園芸課長が病虫害対策として特に必要と認める品種